



【2016年12月12日（月） 晴天】

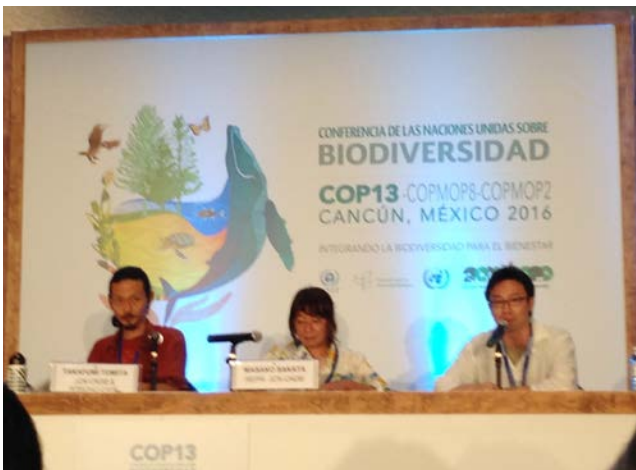
### ● UNDB市民ネットのプレス発表

ラムネットの団体会員であるUNDB市民ネットの坂田昌子さんと富田さんによる、「福島原発事故による放射能汚染と生物多様性」についての記者会見が、アリーナ棟のプレスカンファレンスで、昼の12時から行われた。

会見では、福島原発事故後の問題を「森林問題」「海洋汚染問題」「一次産業への影響」「社会的コスト」の4つの側面に分けて、その状況が説明された。森林に蓄積した放射性物質は植物の中に取り込まれ、既に昆虫などには奇形が見られること、メルトダウンした炉心を冷やす冷却水は1日400トン必要で、毎日それが海洋に流出していること、自然生態系に大きく依存する農業や漁業といった一次産業への影響は計り知れず、除染対応には膨大なコストがかかることなどが報告された。

最後に、市民団体として、生物多様性の視点からのニュートラルで冷静な科学的調査が早急に行われ、その情報をオープンで誰でもアクセスできるようにし、放射能汚染の危険性に関する情報が国際的に共有されることを強く望むと結んでスピーチを終えた。

放射能汚染の問題を発表するに際しては、CBDアライアンスのメンバーのクリスティーナさんが支援してくださり、実現に至った。ただどしい英語による会見だったにも関わらず、多くの参加者が高い関心を示し、質問や意見が交わされた。



### ●本日のブースの様子

国立生物多様性センターのキム・ジンハンさん（韓国代表団の団長）が、ラムネットJのブースに立ち寄ってくださいました。また、ボツワナのバードライフのカベロ・センヤト博士もブースに来てくれました。



左：呉地さん、キム・ジンハンさん、柏木さん  
右：カベロ・センヤト博士、後藤

### ●ラムサール水田決議に関連するサイドイベント

12月12日（月）18時15分から、JICA主催のサイドイベント「農業実践における生物多様性の主流化：ラムサール水田決議の生物多様性保全実例（仮約）（Mainstreaming of Biodiversity into Agricultural Practice: Rice Paddy Resolution of the Ramsar Convention (Res. X.31) for Biodiversity Conservation Practice)」が、サンライズ棟のアジア太平洋地域グループのミーティングルームで開催された。

JICAの長谷川さんがモデレーターとなって、ウガンダのマファビさん、カトさんが発表し、ディスカッションが行われた。



※バスの窓から町の様子を撮影した動画を2本、YouTubeにアップしました。



<https://youtu.be/gCyzTh11ftI>

<https://youtu.be/TWXmYRk2FBo>

（レポート：後藤尚味）